

まず、神は彼らにクルアーンと同じような数の章を ってみるよう挑みました:

“??10??
??
??”
?????11?13?14?

しかし彼らがその挑 を果たせずにいると、神はその挑 を一章だけに されました:

“??
??
??”
?????”??????2?23?24?

そして神は最終的に、彼らにはその挑 を永久に果たすことが出来ないことを予告するの
です:

“????????????????1
??”??????17?88?

言者ムハンマドは言いました:

“????????????????????‘????’??
??”

言者によって行なわれた奇 は、その 代に限定されたものであり、それを直接目 した人
々にだけ有 でしたが、クルアーンという する奇 は、他のいかなる 言者にも与えられな
かったのです。その言 学的な卓越性、式、メッセ ジの明 性、 の 得力、修辞の 、そして人
にはその最短の章でさえ似通ったものを り出すことが出来ないという事 が、この上な
い独自性をもたらしているのです。示を目 した人々、そしてその の人々は共に、同じ
英知の源泉から知 を得ることが出来ます。これこそが、言者ムハンマドが最も多くの
追 者を期待した理由なのです。また彼は人々が大 してイスラ ムの教えを受け入れるこ
とも予言しており、それは本当に しているのです。

クルアーンの 性に する 明

言者ムハンマドの状

彼は普通の人 でした。

また彼は文盲でした。つまり彼には み きが出来ませんでした。

彼が最初の 示を受け取ったのは、彼が40 を ぎてからでした。それ以前も彼は演 者、 人、または文芸家などとして知られていた でもありませんでした。彼は普通の商人だったのです。彼は 言者として ばれるまでは、 の一 すら いたこともなければ、演 一つしたこともなかったのです。

彼は神へと 属される をもたらし、当 のアラブ人たちは皆、その さに同意したのです。

クルア ンによる挑

クルア ンは 言者を拒否する人々全 に挑 を挑みます。その挑 とは、たとえ力を合わせてでも、それに似通った章 (???) を一章でも り出すことです。つまり挑 を受ける人物は物理的、そして精神的世界からあらゆる助けを得てそれに取りかかっても良いのです。

このような挑 の理由とは？

まず、当 のアラブには の文化がありました。 は彼らにとって最高の装 品であり、最もれた表 方法でした。アラビア の は、口 にそのル ツを辿ります。それは、アルファベットを 得する前の「声」だったのです。 人たちは 解な を即 で作り上げ、何千もの句の暗 を としました。アラブ人たちは 人とその への にする、 格な基 を たすための なシステムを有していました。年に一度の大会では、 における‘アイドル’を び出し、それらは 金に刻印され、その他の偶像と共にカアバ 殿の中に吊るされたほどでした。また に最も精通した者が、彼らの 判 として批 しました。 人たちには を勃 させることも、部族 の 和平をもたらす力もありました。彼らに女性、酒、 いを らせると右に ぶ者はいなかったのです。

次に、言者ムハンマドの者たちは、いかなる手段に えてでも彼の目的を妨害しようとして意していました。神は、彼らに非暴力によりムハンマドを する 会を与えました。

挑 を果たすことに する 能さの露呈、またそれがもたらした 果

イスラ ム以前のアラブ人たちが、クルア ンに 似するようなものを一章たりとも制作することが出来なかったことの 人は、 史です²

その代わりに、彼らは暴力に えて、彼に しての 争を遂行しました。彼らにはクルア ンの挑 を受ける能力と があつたにも わらず、そうすることが出来なかったのです。もしもに彼らがそうしたのであれば、クルア ンは りであること、そしてそれをもたらした男 は 言者として暴かれたかも知れなかったのです。当 のアラブ人たちがそうしなかったのは、いやそう出来なかったのは、クルア ンの 性の 明です。それはまるで、井 の傍らに いる えた男性が、その きによって死んだ唯一の原因が、水に到 することが出来なかったという例えに表すことが出来るでしょう。

さらに、以前のアラブ人たちがクルア ンによる挑 を果たすことが出来なかったことは、 世のアラブ人たちがそれを 成するのはさらに困 であることを意味します。というのも、彼らの文学的能力は、 去のアラブ人の持っていた古典的アラビア の精通度にはとても及ばないためです。アラビア の言 学者たちによれば、 言者の 代とそれ以前のアラブ人たちは、その直 の数世代を除いて、最も完全に言 学的法 、 律、押 などに熟 していたとされています。 世のアラブ人たちは、 的アラブ人たちの精通度には到底及ばなかったのです。³

最 に、アラブ人たちへの挑 は、そのまま非アラブ人へも 用されることが指摘されなければなりません。もしアラブ人たちにその挑 が果たせないのであれば、アラビア 非 者もそれを果たすことが出来ないことを意味します。それゆえ、クルア ンの独自性は非アラブ人に しても 立されることになります。

もし かがこのように言ったとしましょう：「恐らくはクルア ンの挑 が、ある人物によって 言者の 代に果たされたが、 史の1ペ ジにそれが刻まれなかっただけではないのだろうか？」

人の起源から、人々は重要な出来事を次世代へと伝えて来ました。特にそれは人々の注目を引きつけるような事柄、または人々の探し求めるような情に しては当てはまりません。クルアンの挑は当の人々のに まり、知れ渡りました。そしてもしそれが果たされたのであれば、その事 が私たちに知られないことは不可能であるといえるでしょう。しかし、たとえそれが 史の史料から失われたのだとしても、可能性としては更なるモゼ、イエス、ムハンマドがいたかもしれないのです。つまりそれらの想像上の言者たちには更なる 典が下されていたのかも知れず、世界がそれに して全く 知でいる可能性もあるのです。そういった推 が 史において根 の ないように、クルアンの挑 が果たされたことが私たちに えられなかったと想像することも同じように非 理的であるといえるでしょう。4

次に、もしも彼らが挑 を果たしたのであれば、アラブ人たちは 言者の信 性を失 させようとしたはずです。それは彼らにとって最も 力な 言者プロパガンダの道具になり得たのです。このような出来事は全く起こっておらず、その代わりに彼らは 争という道を びました。

非ムスリムによる、‘クルアんに 似した一章’を り出すいかなる努力も らなかった事からは、一人として努力に する程の をクルアんに いたさなかったか、もしくはその努力をしたにも わらず成功に及ばなかったかのどちらかであるといえるでしょう。ここからクルアンの 性、そしてその 立った永 のメッセ ジ性が浮き りにされます。クルアンの独自性に加え、その神からの人 へのメッセ ジは、イスラ ムが真 であるという かな兆候なのです。この事 により、すべての人々は二者 一の内の一つを ぶこととなります。そしてそれはクルア ンが神の言 であることを公に めることなのです。それと同 じに、ムハンマドが神による御使いであり、神の使徒であることも めなければなりません。そうでなければ、それはクルア ンが真 であることを密かに知ってはいるが、心ではそれを拒否するという をすることになるからです。もし探求者がその探求において なのであれば、クルア ンの 性に する疑 を追求することにより、宗教の最 的な真理を したという内なる 信を育むべきなのです。

Footnotes:

1

人と平行して存在する不可の存在のこと。

2

この事はノンムスリムの洋学者らによって真正であることを明されています。

‘最も優れたアラブ人作家たちでさえ、クルアンのに合うようなものを作ることが出来なかったこと自体は、
ではない’ (E H Palmer (Tr.), The Quran, 1900, Part I, Oxford at Clarendon Press, p. lv)

‘そして1500年に渡り、一人としてムハンマドの行なったような重厚な旋律の器具をもって、力強く、大胆に、
り精神的影を及ぼした人物はいなかったのである アラビア文学においても独特な、文学的金字塔としてのクルア
れゆえに自らを立たせ、その形式においても先者と者がなかったのである’ (H A R Gibb, Islam - A Historical Su
1980, Oxford University Press, p. 28)

またアラブ人キリスト教徒もこう述べます：

‘多くのアラブ人キリスト教徒たちは、その式にし暖かな称を送り、大半のアラブ研究者たちもその卓越性をめ
。それが声に出して朗く、または朗くされると、その奇なシンタックスや私たちにとってに不快な内容があるにもわ
るで催眠のような果をもたらします。それにする批判を沈ませるような甘美な言の音色は、比なき教を生させ
に、アラブ人たちによるかつ多な文学の内において、文としても高尚な散文としても、それに比し得るものは何
てないのです。’ (Alfred Guillaume, Islam, 1990 (Reprinted), Penguin Books, pp. 73-74)

3

学者ルンマニ（ヒジュラ 386年没）はこうしています： ‘よって、もしもかがこう言ったとしよう：“あなたは御
において、近代アラブ人たちを念に入れることなく、ベドウィンアラブ人たちの失に信性を置いています。それに
ず、あなたによればクルアンは奇の最たるものであると述べます。近代アラブ人たちからはスピチの卓越性をい
が出来ます。”この返事としてはこう言うことが出来るでしょう：“ベドウィンたちには完全なアラビア文法の造が
らされ、またそれを 使うことが出来ましたが、近代アラブ人たちにしてはもその完全な言 造を使いこなすことか
せませんでした。ベドウィンたちは巧みに言を操り、その使用においてより力 かったのです。彼らにはクルアンの模
とが出来なかったことから、近代アラブ人たちにとってはその失がさらに 著でなければならぬはずです”。(Textual
Sources for the Study of Islam, tr. and ed. by Andrew Rippin and Jan Knappart)

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/345>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。